



虹が見える場所を求めて  
にじいろプロジェクト進行中

医療法人済世会では、雨上がりの空にかかる、にじを見たときのように爽快な気持ちになっていただける施設づくり「にじいろプロジェクト」を進めています。その一環として昨年5月に、河野名高病舎入り口に開設した「にじいろベーカリー」は、統合失調症を主病に、健常者経験がない、もしくははじめての精神障害者が働く社会参加できる場所です。これから健康に戻っていくこととする人と健康な人との触合いの場所を「カフェ＆ベーカリー」です。

傘を閉じなければ、虹は見えない。

エグゼクティブのストレス障害を独自の視点で考え、  
メディカルケアを実践するドクターの思い。

予防医学がトレンドと  
なるような時代が来る。

2025年には、高齢化率が30%を超えて、年間死亡者数も160万人超と現在の1.6倍以上になると予測され、医療費適正化という名の医療費抑制政策が続いています。

このような社会的背景のなかで、会社経営や企業の本業に位置するエグゼクティブのストレスは

計り知れないものがあるはずですが、しかし、ほとんどの人たちが、体や心が発するシグナルに気がつきません。これからは、早期に医師にかかり、発病を抑える予防医学という概念が主流になるべきなの

です。

たとえば、「うつ病」は心の風邪と喻えられます。風邪ならば早めに休みをとれば治ることが多いですが、肺炎になってからでは死に至る場合もあります。「うつ病」も一人で抱え込まずに早く休み、適切な治療を受ければ重症化せずに治る病気なのです。

専門医のもとで安心して  
休養してください。

入院することで生活の環境を変え、ゆっくりと休養する。今年5月に設置した河野名高病舎の「プレミアムルーム」は通常の病室とは違い、まるでホテルの一室のような落ち着いた空間で、DVDやパソコンも完備しています。もし、不眠であれば専門の医師や看護師が対応いたします。休養に際して手続きが必ず要ならば担当の精神保健福祉士がご相談にのります。

ここは日常へ復帰する  
ためのオアシスです。

入院して病状は回復したけれど、しかし、家に居てばかりでは先に進めない。まずは、定時に家を出てオフィス街まで来ませんか。そして、「薬院河野クリニック/メディカルサポート薬院」のリラクゼーションルームでネクタイを緩めゴロゴロする。気が向けばパソコンでもいじってみる。そんな自由な時間を過ごしてください。

「生活リズムや体力が戻ったならば仕事に復帰してみようか」。

そんな考えで、街中でゆっくり復職へリハビリするオアシスとしてご利用いただきたい。ここは、エグゼクティブが相談から復職するまで、すべてを私たちがともに過ごしていただける場所なのです。また、メンタルヘルスに限らず、すべての疾患について経験豊富な専門医師が通常の診察室ではなく、応接間のような空間の中で健康相談に応じます。



「薬院河野クリニック」  
「メディカルサポート薬院」



2010年1月開設予定

〒810-0022 福岡市中央区薬院4丁目4番20号

医療法人 済世会

〒811-2413 福岡県糟屋郡篠栗町尾仲139  
TEL.092-947-0611(代) FAX.092-947-8598  
http://www.kawano-hp.com

Masami Kawano  
MD, PhD



People  
espresso

医療法人 済世会 理事長  
医学博士  
河野 正美

1961年東京生まれ。九州大学大学院にて医学博士号取得。九州大学病院精神科勤務を経て、1998年4月より医療法人済世会河野病院（糟屋郡篠栗町）院長。2000年7月医療法人済世会理事長に就任し、あわせて河野名高病院（福岡市東区）、河野名高病院（糟屋郡篠栗町）（小児科施設を併設）併得、日本精神科病院協会代議員、福岡精神科病院協会理事（福岡アソシエーション）、福岡県医師会理事、福岡県福祉委員会ほか要職を兼任。